

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：荒川 辰雄

事業名 連続立体交差事業 京成電鉄押上線（四ツ木駅～青砥駅間）	事業区分 連続立体交差	事業主体 東京都	
起終点 自：東京都葛飾区東四つ木 至：東京都葛飾区立石		延長 1.1km	
事業概要 本事業は、京成電鉄押上線の四ツ木駅～青砥駅付近において鉄道を高架化することにより、11箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。			
H14年度事業化	H12年度都市計画決定	H14年度用地着手	
全体事業費 約483億円		事業進捗率 約47%	
計画交通量 170,873台・時／日（踏切交通遮断量）		供用済延長 — km	
費用対効果	B/C （事業全体） 1.6 （残事業） 3.6	総費用 （残事業）/（事業全体） 210/485億円 事業費：206/482億円 維持管理費：3.7/3.7億円	総便益 （残事業）/（事業全体） 752/752億円 移動時間短縮便益：670/670億円 走行経費減少便益：68/68億円 交通事故減少便益：15/15億円
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=1.4～1.7（交通量±10%） 事業費：B/C=1.5～1.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.4～1.7（事業期間±20%）			
感度分析の結果 （残事業）交通量：B/C=3.2～3.9（交通量±10%） 事業費：B/C=3.3～4.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=3.4～3.8（事業期間±20%）			
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> ・高架下の有効利用による生活の質の向上 連続立体交差事業によって生み出された高架下の空間を活用することで地域の利便性が向上する。 ・連立事業を契機とした街の活性化 鉄道沿線のまちづくり事業と一体的に進めることにより、総合的な都市基盤整備に貢献する。 ・踏切除却による防災性の向上 地震時における、列車の駅間停車等による踏切遮断がなくなり、救急活動等への支障もなくなる。 鉄道沿線の火災において、これまで線路により分断されていた消火栓や防火水槽が容易に利用できるようになる。 			
関係する地方公共団体等の意見 【東京都連続立体交差事業促進協議会（R3.11.26）】 ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。			
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。			
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 京成立石駅北口地区第一種市街地再開発事業について令和3年度に再開発組合認可を取得するなど、周辺のまちづくりの計画が進んでいる。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率100%、事業進捗率約47% ・主に京成立石駅部について、仮駅舎工事、地下道延伸工事、計画構造物基礎工事を実施。 ・今後、仮下り線切替に向け、京成立石駅部や踏切部の仮線工事を実施予定。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 仮線工事完了後、順次本体工事に着手する。			
施設の構造や工法の変更等 京成押上線（押上駅～八広駅間）連続立体交差事業（平成27年8月全線高架化、全踏切除却済）の仮線で使用した桁及び枕木を本事業でも再利用している。今後、本体工事を実施するまでに、施工計画などにおいてコスト削減を検討していく。			

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。
事業概要図	

- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。